

聴覚障害者の研究会参加におけるアクセシビリティを考える

江村 里都¹ 塩野目 剛亮² 白石 優旗¹ 平賀 瑠美¹

概要: 聴覚障害者が研究会に参加することにおいてどのような困難があるのかを聴講者の立場と発表者の立場それぞれについて参加者全員で考える。

キーワード: アクセシビリティ, 聴覚障害

Sound of Silence at Conferences

RITO EMURA^{†1} TAKEAKI SHIONOME^{†2}
YUHKI SHIRAISHI^{†1} RUMI HIRAGA^{†1}

Abstract: We propose an opportunity to share the situation of deaf and hard of hearing people to attend (online) conferences.

Keywords: accessibility, hearing impairment

1. はじめに

情報処理学会アクセシビリティ研究会では、より多くの当事者の積極的な研究会参加を目指してきた。情報処理学会のサポートにより、毎回全発表に対する字幕付与を行ったり、要望があれば、研究会として手話通訳や保険を掛けた上でガイドヘルプを行ってきた。当事者の研究発表は高く評価されることも多く、アクセシビリティという狭い領域ながら、より多くの障害の当事者が健常者では気が付くことのできない研究を行い広めていくという役割の一部を担ってこれることができたと考えている。2019年度末よりコロナ禍により研究会の開催方法はオンライン方式を余儀なくされ、研究会参加のあり方がこれまでと大きく変わっている。それにより当事者の研究会参加・研究会発表は影響されているのだろうか。

本オーガナイズドセッションでは、聴覚障害者に焦点を置き、聴覚障害者として研究会参加という経験を提供する。これにより研究会のアクセシビリティを一層高めることを考えるきっかけにしたい。

2. オーガナイズドセッションの流れ

本オーガナイズドセッション (OS) では、以下の二つの

場合を話題提起とする。

1. 聴者が発表を行うが、参加者にはろう・難聴者がいる。
研究会参加者は全員がろう・難聴者という立場で聴者の発表に参加する。発表者は、数通りの発表方法を行う。
OS 参加者は発表ごとに感想を書きとどめ、その後グループ討論、全体討論を行う。
2. ろう者が発表を行う。参加者は、ろう・難聴者・聴者である。
発表者であるろう者は、数通りの発表方法で発表を行う。
OS 参加者は発表ごとに感想を書きとどめ、その後グループ討論を行う。

その後、聴覚障害の当事者から研究会参加においての問題提起があり、全体討論を行う。

¹ 筑波技術大学産業技術学部
Tsukuba University of Technology

² 帝京大学
Teikyo University